

# 山内一豊ゆかりの地～牧村城～

## 平成18年NHK大河ドラマ『功名が辻』

来年のNHK大河ドラマは、山内一豊とその妻千代の物語です。  
一豊は信長、秀吉、家康と三英傑に仕えながら戦国の世を生き抜き、土佐（高知県）24万石の藩祖となった戦国武将です。

### 安八町と一豊の関係は？

一豊は天文14年(1545)、尾張国岩倉城家老で黒田(旧木曾川町)城主山内盛豊の次男(三男説もあり)として生まれました。  
永禄2年(1559)岩倉城は織田信長に攻められ落城し、盛豊は戦死。残された一豊は流浪の身となります。その時、当町牧城主、牧村政倫のもとに身を寄せ、少青年期の多感な時期を過ごします。この政倫との出会い、牧村での生活が一豊の人生に大きな影響を与えることとなりました。

### 牧 円長寺境内にゆかりの地記念碑を建立



円長寺住職渡辺晃誠さんによる読経の中焼香する小川町長

8月6日(土) 牧円長寺で山内一豊ゆかりの地記念碑の除幕式が行われました。

牧村城は、古文書等を調べても正確な場所を伝えるものが無く、地元の方や文化財審議委員の方と勉強会を重ね、大垣市史編纂室長の清水進さんに話を聞いた結果、円長寺付近であろうと判断し境内に建立しました。

式典には、牧村城主の末裔牧村光尚さん(大野町)をはじめ、NHK 岐阜放送局長、町議会議員、区長会、牧小学校6年生児童など約130人が出席しました。

除幕を行った後、小川町長は「牧村城は、若き一豊が人生を生き抜く才知を学び、出世の足がかりとした場所です。こうした貴重な町の歴史を発信し、後世に伝えていきたい」と話されました。

#### 山内一豊ゆかりの牧村城址

##### 牧村城

十六世紀の戦国時代、当地に小城があり、牧村牛之助政倫(斎藤竜興の家臣)が居城していました。のちに政倫は、牧村兵部利貞(利休七哲の一人)を継嗣にしました。城址は、古記録に「村南にあり」とされており、この付近と推測されます。

##### 一豊のかかわり

土佐藩祖となった山内一豊は、十五歳の時(永禄三年 一五六〇) 牧城主牧村政倫の元に身を寄せました。  
一豊は、守護代岩倉織田家の家老山内盛豊の子として生まれました。永禄二年、織田信長に攻められ、岩倉城は落城し、父と兄は討ち死にしました。一豊は流浪の艱難の時、当地に寄寓しました。

##### 出世の足がかり

一豊は、政倫が敵に襲われた時、水色の帷子鉢巻姿で馬に乗って撃退するなどの武功をたてました。また、地道で誠実な人柄を高くかわれ、秀吉の家来になりました。その後、妻千代の内助の功もあり、土佐二十四万石の大名にまで出世しました。  
牧村城は、若き一豊が激動の中を過ごし、政倫や西美濃の諸武将から貴重な人生を生き抜く才知を学び、出世の足がかりになる場所となりました。

(記念碑全文)

